

## E：環境

## 環境への取り組み

近年、世界では気候変動の急速な進行、資源循環の遅れ、生態系への負荷など、環境問題の複雑化が進んでいます。国際社会では「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、企業に対して脱炭素化・資源循環・化学物質管理等を統合した包括的な環境マネジメントが求められています。

当社グループでは、中期経営計画「P&D2030」に掲げる『地球や社会と共存』を実現するため、事業活動全体を通じた環境価値の向上に取り組んでいます。環境保全を企業成長の基盤と位置づけ、サプライチェーン全体の脱炭素化、化学物質管理の強化、循環型社会の実現に向けた取り組みを加速させていきます。

## 環境負荷低減に向けた取り組み

## 循環型社会の実現に向けた資源循環と廃棄物削減の深化

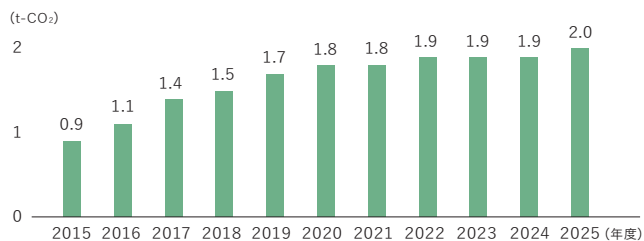
当社グループでは、環境負荷の低減と資源の有効活用を重要課題として位置づけ、事業活動全体での循環型社会の実現を目指した取り組みを強化しています。3R(リデュース、リユース、リサイクル)の考え方を軸とし、生産工程の改善、再資源化の推進、設備投資(廃油燃焼ボイラー)による循環スキームの拡大など、多角的なアプローチを展開しています。

まず、生産工程における廃棄物発生量の抑制を目的に、廃溶剤や金属含有廃棄物の再資源化を推進しています。廃溶剤については、エネルギーとして再利用することで化石燃料使用量の削減にも寄与しています。また、廃棄物に含まれる金属の回収についても資源循環とCO<sub>2</sub>排出削減の両面で効果を上げています。

これらの取り組みの結果、2025年度の再資源化率は24.8%に達し、引き続き改善傾向となっています。今後も再資源化プロセスの見直しや対象物の拡大を進め、さらなる向上を目指します。

## 大阪有機 未来の森づくり活動

自然環境の再生と地域社会への貢献を重視した取り組みを継続しています。その一環として、当社金沢工場で石川県が推進する「企業の森づくり推進事業」に2010年より継続参加しており、森林環境の保全と生態系の維持・再生に寄与する活動を進めています。森づくり活動は単なる環境施策にとどまらず、従業員参加型の取り組みとして社内コミュニケーションの活性化にもつながっています。地域との共生を目指した森林整備の現場に従業員が直接関わることで、環境保全への意識向上と企業文化の醸成が図られています。

CO<sub>2</sub>吸収量

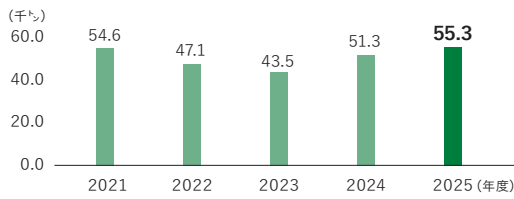
# 環境負荷の状況

化学品製造プロセスで発生する化学物質のライフサイクル全体において、当社グループでは化学物質および廃棄物の管理などの法規制を遵守した環境汚染の防止はもとより、資源再

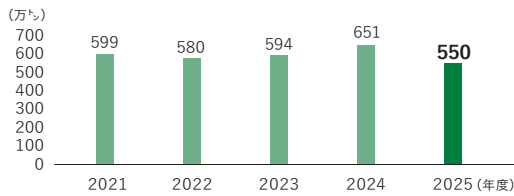
利用や再生可能エネルギーの積極的な活用、取り組みを進めながら環境負荷の低減を目指して活動を続けています。各種ESGデータは、ホームページに公開しています。

## [ インプット ]

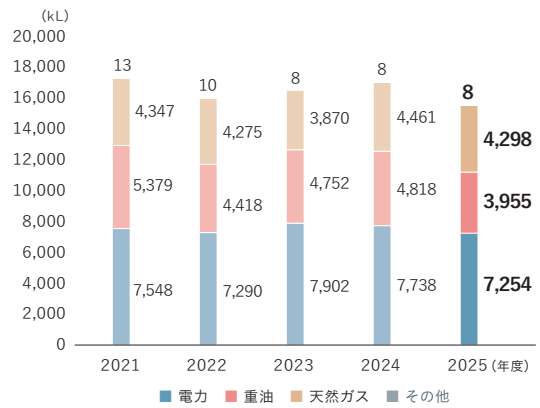
### 原料使用量



### 水使用量



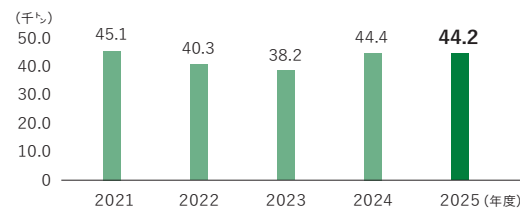
### エネルギー



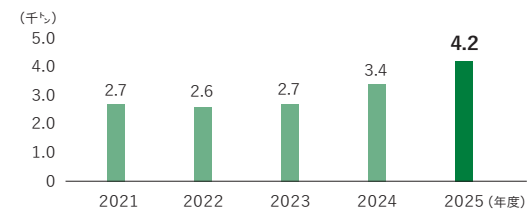
※エネルギー使用量は、原油換算しています。

## [ 事業活動 ]

### 生産量

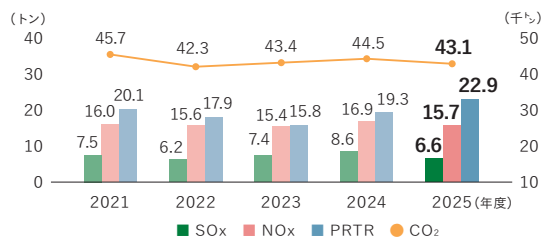


### 廃油・廃溶剤の再利用

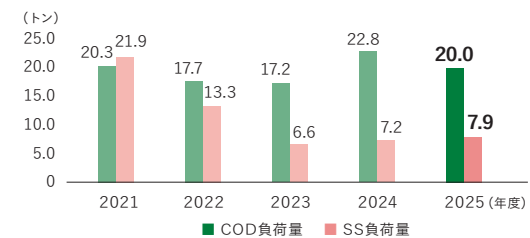


## [ アウトプット ]

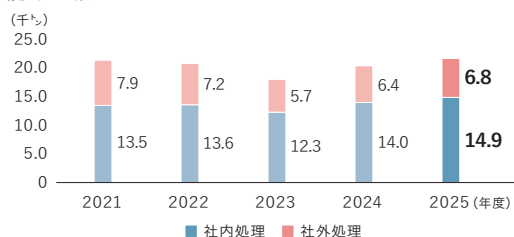
### 大気排出量



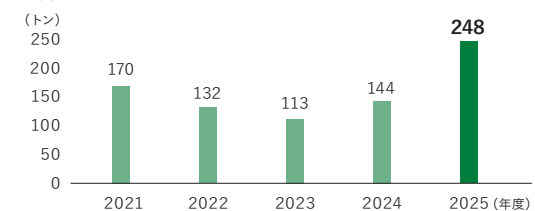
### 水域排出量



### 廃棄物排出量



### 最終埋立処分量



# カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、世界各国で脱炭素化の取り組みが加速する中、日本国内においてもエネルギー政策の転換が進み、企業には温室効果ガス排出削減への積極的な貢献が求められています。当社グループでは、こうした社会的要請を踏まえ、長期的な脱炭素戦略を進めるうえで、再生可能エネルギーの活用拡大とエネルギー利用効率の向上を環境戦略の柱として取り組んでいます。

まず、エネルギー利用に伴うCO<sub>2</sub>排出の削減を目的に、グリーン電力の購入を段階的に拡大しています。2025年度には各事業所における調達範囲を広げた結果、電力使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は徐々に減少し、導入効果が具体的な削減値として確認され始めています。これにより、再生可能エネルギーを活用した電力利用率の向上が進み、企業としてのカーボンフットプリント削減に大きく寄与しています。

## 当社グループにおけるCO<sub>2</sub>削減に向けた施策

当社グループでは、低炭素社会の実現を目指し、生産活動におけるエネルギー効率の向上と再生可能エネルギーの活用を重点施策として推進しています。設備更新、運用改善、燃料転換、電力調達の脱炭素化など、複数のアプローチを組み合わせることで、温室効果ガス排出量の削減を着実に積み上げています。

まず、省エネルギー活動として、工場設備の高効率化を継続的に進めています。老朽設備の更新や生産プロセスを見直した運用改善により、エネルギー使用量の削減を実現しています。さらに、ボイラー周辺設備の効率向上や照明設備のLED化といった現場改善を積み重ねることで、エネルギーロスの低減とCO<sub>2</sub>排出の抑制に寄与しています。

### グリーン電力の導入

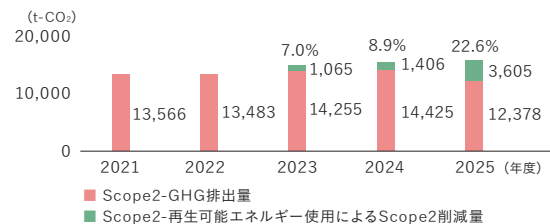
再生可能エネルギーの活用として、2025年度より酒田工場でのグリーン電力の導入を開始しました。これにより、金沢工場でのオフサイトPPAの運用およびグループ会社である神港有機化学工業株式会社 本社工場でのグリーン電力運用を合わせることで、当社グループ全体として、各事業所におけるグリーン電力の購入量が拡大し、CO<sub>2</sub>排出削減効果がより明確に確認され始めています。これにより、Scope2排出の削減が加速し、脱炭素への取り組みが実質的な成果として表れています。

当社グループは今後も、省エネルギー設備のさらなる導入、再エネ調達の拡大、廃棄物のエネルギー化検討などを継続することで、事業活動全体のカーボンフットプリントの削減を進めていきます。引き続き、エネルギー転換と高効率化を両輪として、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを強化してまいります。

CO<sub>2</sub>排出量削減率(対2013年度比)

2025年度実績	2030年度目標	2050年度目標
10%	30%以上	実質ゼロ

Scope2-CO<sub>2</sub>排出量



CO<sub>2</sub>排出量と売上総利益原単位指数推移(対2013年度比)

